

# 立会川流域とは？

立会川流域とは、品川区、目黒区、大田区、世田谷区の一部の地域で、立会川に雨が流れ込む8.06km<sup>2</sup>の範囲をいいます。流域人口は約13.4万人であり、人口密度は約1.7万人/km<sup>2</sup>です。

立会川流域は、東京の中でも比較的早い時期から市街化が進んできました。昭和20～30年代に流域内の市街化は急激に進み、現在ではほぼ全域が市街地となっております。

流域には、第一京浜、第二京浜などの主要な幹線道路や新幹線、JR東海道本線、東急、京急など主要な鉄道が通っており、立会川流域は高度に市街化の進んだ流域です。

## <立会川の概要>



## 立会川の特徴

立会川は、東京都目黒区碑文谷を源とし、品川区を東方に貫流する延長7.41kmの河川です。月見橋（品川区東大井六丁目付近）から起点（目黒区碑文谷一丁目付近）の区間6.66kmは暗渠化されており、下水道幹線として利用されています。暗渠の上部には立会道路が整備されており、通学、通勤など多くの方に利用されています。月見橋から河口（品川区南大井一丁目付近）の区間0.75kmは開渠区間となっています。開渠区間は全て感潮区間となっており、満潮時には月見橋付近まで海水が上がります。

立会川では、平成14年より月見橋付近からJR総武線の馬喰町駅～東京駅からの地下水を導水しており、1日あたり約1,600m<sup>3</sup>の地下水を流しています。



河口付近: 品川区南大井一丁目付近



開渠区間: 品川区東大井二丁目付近



立会道路: 品川区東大井六丁目付近

# 河川整備の目標

立会川では、洪水・津波・高潮に対する安全性を向上させると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

## 計画対象区間と期間

計画対象区間は、月見橋～河口までの0.75km区間で、河川の整備から維持管理に関することも含まれます。

計画期間はおおむね30年を目標としていますが、川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

## 河川の整備

### 治水

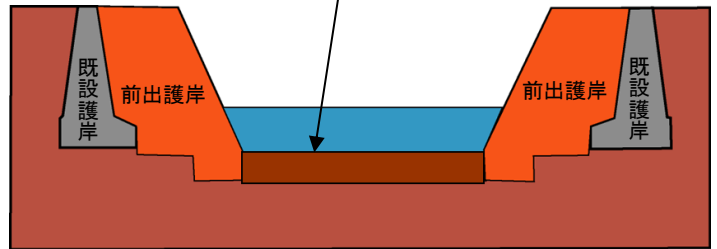
・・・洪水・津波・高潮による水害の防止又は軽減

伊勢湾台風と同規模の台風による高潮や最大級の地震による津波に対して安全であることを目標とし、立会川の最下流部に樋門・排水機場を建設します。また、洪水に対しては、下水道幹線（月見橋より上流）から放流される $15\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流すことができる河川の整備を進めます。



樋管・樋門イメージ  
(北十間川樋門)

治水上許容できる範囲で土砂・石等により河床を整備する。



整備断面図  
(河口～立会川橋下流)

### 環境

・・・生物の生息・生育の場となる河川環境の創出

地下水の導水等により、河川の水質を保持するとともに、水生植物や魚類等の生育・繁殖しやすい河川環境の創出を目指します。



JR総武線馬喰町駅～東京駅からの地下水の導水（品川区）



前出護岸による親水空間の創出